

「看護師の臨床ラダー 小田原循環器病院」

看護の核となる実践能力: 看護師が論理的な思考と正確な看護技術を基盤に、ケアの受け手のニーズに応じた看護を臨地で実践する能力

| レベル | | 新人 | I | II | III | IV | V |
|--------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 定義 | レベル毎の定義 | 循環器疾患患者の病態を踏まえ、基本的な看護手順に従い指導のもと看護を実践する | 循環器疾患患者の病態を踏まえ、看護手順に沿った必要時助言を受けながら看護を実践する | 循環器疾患患者の特徴を理解し、標準的な看護計画に沿って自立して看護を実践する | 循環器疾患患者・家族を全人的に捉え、ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する | 幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する | より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する |
| | 【レベル毎の目標】 | 指導者とともに、ケアの受け手や状況のニーズをとらえる | 循環器疾患患者が必要とするニーズをとらえる | 循環器疾患患者の特徴を踏まえ、ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる | 患者を全人的にとらえ、必要なニーズをとらえる | ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる | ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえてニーズをとらえる |
| 【行動目標】 | 【行動目標】 | □指導者とともに、フィジカルアセスメントに必要な情報収集ができる | □助言を受けながら、ケアの受け手に必要なフィジカルアセスメント及びヘルスアセスメントに必要な情報収集ができる □助言を受けながら、ケアの受け手から得られた情報をもとにフィジカルアセスメントを行い、緊急度をとらえることができる | □自立してケアの受け手のヘルスアセスメントに必要な情報収集ができる □得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる | □ケアの受け手の個性を踏まえたヘルスアセスメントに必要な情報収集ができる □既往歴や家族背景、検査データ等をもとに、個別性のあるヘルスアセスメントができる □得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる | □予測的な状況判断のもと、ヘルスケアアセスメントに必要な情報収集ができる □意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる | □複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる □ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる |
| | 【レベル毎の目標】 | 指導者とともに、安全・安楽な看護を実践する | 循環器疾患の病態を踏まえ、根拠に基づき、安全な看護を実践する | 循環器疾患患者の特徴を理解し、ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する | 患者を全人的にとらえ、特性を踏まえた看護を実践する | 様々な技術を選択・応用し看護を実践する | 最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する |
| 【行動目標】 | 【行動目標】 | □指導者とともに、看護手順に沿ったケアが実施できる □致死的不整脈が分かり、指導者の指示に従い急変時の対応ができる | □指導を受けながら看護手順に沿って、根拠を踏まえたケアを実践できる □指導を受けながらケアの受け手に対して個別性に配慮した援助ができる □致死的不整脈が分かり、急変時の初期対応および記録ができる | □ケアの受け手の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる □ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる □ケアの受け手の状況に応じた援助ができる □急変対応時、メンバーに必要な指示を出すことができる | □個別性に合わせて、適切なケアを実践する □顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法について工夫ができる □個別性を捉え、看護実践に反映ができる □急変対応時、家族や他患者への配慮ができる | □ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる □幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる | □ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる □複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる |
| | 【レベル毎の目標】 | 多職種との情報共有ができる | 関係者と情報共有が出来る | 循環器疾患患者の特徴を踏まえ、看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる | 患者やその関係者、多職種と連携できる | ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる | ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす |
| 【行動目標】 | 【行動目標】 | □指導者とともに、看護実践のために必要な情報が何かを考え、その情報を多職種と共有することができる □指導者とともに、メンバーシップを発揮できる □報告・連絡・相談ができる □院内で働く各専門職の役割が分かる □多職種連携の必要性が分かる | □ケアの受け手を看護していくために必要な情報を関係者と共有することが出来る □助言を受けながらチームの一員として行動することが出来る □助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる □ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる □多職種連携カンファレンスでの看護師の役割が分かる | □ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれ積極的に情報交換ができる □関係者と密にコミュニケーションを取ることができる □看護の展開に必要な関係者を特定できる □看護の方向性や関係者の状況を把握し、多職種カンファレンスで情報提供をすることができる | □患者の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力しながら多職種連携を進めていくことができる □患者とケアについて意見交換ができる □ケアに必要と判断した情報を関係者から収集し、看護計画に反映することができる。 □多職種間で情報を共有し、目標達成に向け調整することができる | □ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる □多職種間の連携が機能するように調整できる □多職種の活力を維持・向上させる関わりができる | □複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる □多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる □関係者・多職種間の中心的役割を担うことができる □目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる |
| | 【レベル毎の目標】 | ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る | ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る | 循環器疾患患者の特徴を踏まえ、ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かす事ができる | 患者や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる | ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる | 複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる |
| 【行動目標】 | 【行動目標】 | □指導者とともに、患者の思いや不安に寄り添い、記録に残すことができる | □助言を受けながら、ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え・希望を確認し、ケアに反映することができる | □自ら患者や周囲の人々の思いや考え、希望を確認し、ケアに関連付けることができる | □患者や周囲の人々の意向の違いが理解できる □患者や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる □患者や周囲の人々の思いや考え、希望を確認し、カンファレンスで共有できる | □ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる | □適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる □法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる |